

2023年度 UPLB 英語コース受講者(Batch15^{*})の声

* 2023年度(2024.2.24(土)出国、3.16(土)帰国)は受講希望者増と少人数クラスの両立のため B15(2年生13名)とB16(1年生12名)に講義クラスを分けつつ、他は混成にして一体感を醸成しました。

10月上旬にコース説明会をしますが、事前に受講条件、費用(実質30万円前後の見込)、事前学修会、現地での生活などについて知りたい方は、農学部応用生命化学コース 金丸先生 (kng@kobe-u.ac.jp) または農学部教務学生係 (ans-kyomu@office.kobe-u.ac.jp) にお訊ねください。

迷ったらとりあえず飛び込んでみよう！

農学部 生命機能科学科 2年 H. U. (UME)

まず初めに、私が最も伝えたいことは、「迷うなら絶対にやってみた方がいい！」ということです。これは人生の様々な場面で共通して言えることですが、フィリピンへの留学を終えて、私はこれをとても強く感じています。

私がプログラムに参加した最初のきっかけは他の人と比べるととても単純なのですが、ただただフィリピンに行きたいという動機からです。私はもともと海外に行ったことがなく、フィリピンなどの日本とは全く文化の異なる国に行き、その土地の生活を体験してみたいという興味がありました。高校生の時に海外研修でフィリピンに行く機会があり、事前学習でフィリピンのことを学んでフィリピンに行きたい！という気持ちが増した時、ちょうどコロナが流行り始め、フィリピンへの渡航が中止になってしまったという経験がありました。その時にとっても悔しい思いをしたので、もう一度リベンジしたいという思いからこの留学に行くことを考え始めました。でも正直なことを言うと、私の場合は締め切りギリギリまで行くかどうか悩みました。理由は海外に今まで行ったことがないのにいきなり3週間も滞在できるか不安なことや、まわりに一緒に行く友達がいないこと、自分の英語力に自信がないことなど、不安なことを挙げ始めたらキリがなかったからです。しかし、最後のきっかけは1年前に参加した友人の言葉でした。私が行くか悩んでいることを伝えたときに「迷ってるんやったら絶対に行った方がいい！行って後悔はしないから。」と強くお勧めされました。これを受けて私は覚悟を決め、この留学に申し込むことにしました。



↑ マニラ空港にて参加学生全員、金丸先生、茶谷先生、LITE スタッフと、フィリピンオリジナルファストフード店 Jollibee の前で

結果、このプログラムを通じて、私は自分の今の英語力がどのくらいかを客観的に判断することができ、スピーキングやリスニングなど、会話するときにかかせない英語力を向上させることができました。また、3週間の滞在を通じてフィリピンでたくさんの現地の大学生の友達を作ることができ、日本にいるときよりも積極的に行動できるようになりました。

フィリピンの留学はおもに「授業」、「GI(現地の学生さんとの交流)」、「観光」がプログラムの中に入っていて、どれもそれぞれ印象深かったことがあるのでここに書きたいと思います。

まず授業について、基本的に平日は授業があり、おもに発音やコミュニケーション、スピーチの方法などを学びます。まず驚いたのは、基本的に座って静かに受ける日本の授業とは違い、フィリピンでは手を挙げて発言したり、グループワークをしたりと授業に活発に参加することが求められるということです。授業中に先生も含めてダンスを踊ったり、席を立てて体を動かすゲームをしたりと日本の授業ではないような光景が多くみられました。初めは手を挙げようかどうかためらってしまい、なかなか積極的に発言することができなかつたのですが、1度勇気を出して手を挙げてみると、意外とすがすがしい気持ちになることがわかりました。授業を重ねるにつれて私も含めて、だんだんとクラス全体が積極的に手を挙げて発言するような雰囲気になっていくのが、成長が目に見えるようで嬉しかったです。特に自分の中で成長を感じたのは発音です。初めは自分の英語の発音に自信がなく、R と L の発音もあいまいだったのが、授業中に先生が1:1で教えてくれる機会や練習する機会が多くあったおかげで、自分が納得できるまで練習することができました。英語独特の発音も、留学前と比べると区別して発音できるようになったのが成長を実感できて、私の中でとても嬉しかったです。また、自分の中で難しかったのはプレゼンテーションです。日本のプレゼンと違うのは、ノンバーバルコミュニケーションと言って、ジェスチャーやアイコンタクトなど、言葉以外の要素がとても重要視されるということです。授業中に伝わりやすいプレゼンについてや、プレゼンにおいて大事なことなどを分かりやすく説明してくれたおかげで、今まではプレゼンの仕方自体に自信がなかったけれど、プレゼンの仕方が明確に分かり、また授業の最後に実際にプレゼンする機会もあったおかげで、自分が苦手なプレゼンに向き合うことができました。プレゼンの技術は今後にも必ず役立つけれど、大学に入ってから専門的に学ぶ機会があまりなかったため、時間をかけて学べてよかったと感じています。



↑ 到着翌日だけは朝食(左)、オリエンテーション後の Merienda(中)、1 時間後に昼食(右)と続きます

GI は授業が終わった放課後に2時間ほど、日本人3、4人とフィリピンの大学生2人(ファシリテーター)ほどがグループになって大学内や大学のまわりなどを自由に散策する時間のことで、カフェに行ったり、公園で遊んだり、フィリピンの大学の人と英語で交流しながら様々な体験ができます。フィリピンの学生さんたちは、日本人では出会ったことがないほどフレンドリーな人がとても多く、初めて会ったとは思えないくらいとても親しく話しかけてくれます。会う前は、「初めて会う人と英語で話して仲良くなれるかなあ」と、とても心配していたのですが、初めて会った時からフィリピンの人たちは名前を覚えてくれていて笑顔で声をかけてくれたり、私たちがわかりやすいようにゆっくり話してくれたりなど、言語の壁などを感じることなく、すぐに仲良くなることができました。GI の時間中にカラオケに行ってフィリピンの歌を歌ったり、カフェで他愛のない女子トークをしたりなど、フィリピンの大学生の放課後を少し体験できたのが新鮮でとても楽しかったです。GI で出会ったファシリテーターさんとはたまに電話をしたり、フィリピンの

様子を動画で送ったりしてくれて今でもつながりを持っています。私にとっては日本人以外の友達ができるのは初めての経験で、このつながりを大切にしたい GI 中に特に印象に残っているのは、ファシリテーターさんと話していると、ファシリテーターさんは今テスト期間で勉強しなければいけない、と会話の中でさらっと言っていて、その時に初めて私たちは今が UPLB のテスト期間(しかもその時にはもう終わりかけ)であると知ったことです。テスト期間は勉強が大変なはずなのに、それを全く感じさせることもなく、夜 18 時くらいまで GI の活動で一緒に街を散策してくれ、しかも土曜日に私たちの買い物に個人的に付き合ってくれたり、GI のミーティングに出たりと、勉強以外の予定が詰まっていることにとても驚きました。日本の大学生、特に私の場合は、テスト期間以外はそこまで熱心に勉強することはなく、テスト期間になってから焦り始め、頭の中はだいたい勉強のことになり、テスト勉強が忙しすぎて、それ以外のことに手を付ける余裕がない状態になっています。しかし、フィリピンの大学生はもちろん勉強も熱心にするけれど、それだけでなく他のこともバランスよく、要領よくこなす能力にたけていると感じました。私も彼らを見習って、効率的に時間を使い、要領よくこなしたいと思い、課題や勉強への取り組み方を考え直そうと思うきっかけになりました。



↑ 開講式のあと 8 人の講師、実施責任者の Sir Jerard(右端)と

観光は、留学中に3回ほどあり、バンで大学内を回ったり、少し足を延ばしてマニラの街や Villa Escudero というリゾート施設に行ったりなどの観光をしました。特に印象に残っているのは Villa Escudero というリゾート施設で水牛の牛車に乗って移動したり、施設内にある川の中でお昼ご飯を食べたりしたことです。その施設では水牛の牛車が何台も走っていて1匹の水牛が20人ほどの人を乗せた重い車をいとも簡単に引っばって目的地まで連れて行ってくれます。水牛がとても力持ちであることに驚きました。そして、その目的地から少し歩くと滝があり、その滝のふもとに浅い川の中に椅子と机があり、そこでバイキング形式でバナナの皮で包んだおにぎりやバゴーン(フィリピン料理で有名な小エビの塩漬け)やマンゴーなどのフィリピンならではの料理を食べることができました。日本ではなかなかできない体験ができて、とても楽しかったし、忘れられない思い出になりました。

最後に、今回私はフィリピンへの留学について、初めは迷う気持ちがあったけれどそれを振り切って、「やってみる」ということを選びました。この決断は正解だったと強く思っています。それは、春休みの3週間で自分の考え方が変化し、自分が成長できるきっかけになったと感じているからです。

もともと私は引っ込み思案な性格で人と話すのが得意ではなく、人前で目立つこと、人前に立って話すことがとにかく苦手でした。そんな自分の性格を変えたいと思っていたのですが、今まではなかなかそんな自分を変えるきっかけがありませんでした。しかし、今まで住んでいた環境を離れて、生活スタイルや文化の異なるフィリピンに

行き、その現地の人たちと交流するという機会のおかげで、日本にいたときのように受け身のスタイルよりも積極的に話した方が仲良くなれるということがわかり、日本にいるときよりも積極的に行動でき、いい意味で自分の殻を破ることができたのではないかと考えています。もし私はこのプログラムに参加していなかったら、とりあえずバイトをしたり、友達と遊んだりと惰性で過ごしてこの春休みを終えていたと思います。しかし、思い切ってこの留学に行くことで、春休みのうちの3週間で自分にとって有意義で、英語力もそうですが、人間的にも成長できるきっかけになるような過ごし方ができたと思っています。この留学を終えて、今回フィリピンで学んだことを忘れることなく、日本でも積極的に英語の勉強や自分の興味あることなど、様々なことにチャレンジして学び続けたいと思っています。もし、留学に行こうか決めきれず迷っている人がいたら、騙されたと思ってぜひ勇気を出して応募してみてください！きっとフィリピンで新たな出会いが待っているし、絶対に後悔はしないと思います！



↑ 初日午後の B15 の preEPE (講義開始前のレベル確認のためのマンツーマン面接)

自分とは何かを考え続けた 3 週間

農学部 生命機能科学科 2 年 K. K. (KATE)

突然ではありますが、もしあなたが農・理学部に所属していて、英語圏への語学留学を少しでも考えているのなら、UPLB 農学英語コースに参加すべきです。このプログラムでは、充実したサポート体制が整っており、歴代の農学部生お墨付きの最高のプログラムです。様々なアプローチから英語を学び、文化交流や観光面でも充実した時間を過ごすことができ、フィリピンの魅力を十二分に堪能できます。また、個人での留学にはなかなか手の届かないところまでサポートしてくれるため、これによって快適なフィリピン生活を過ごし、集中して様々なことを学び吸収することができます。私自身も、2023 年度の UPLB 農学英語コースを履修致しましたので、その体験のあらましと率直な感想を述べつつ、神戸大学受験生の方や、コースの受講を検討されている方に向けておすすめポイントを紹介できればと思います。

まずは、私自身の参加への経緯です。本コースの運営に深く携わってきた土佐先生や金丸先生の授業にて、何度かお話を伺うことがあり、また私自身大学入学後はフィリピンに留学し、文化に触れつつ英語を強化したいと感じていたため、このコースは私にぴったりだと感じました。そして、昨年度本コースを受講し終えた友人からの話を聞く機会があり、このことが参加への意欲を強めました。彼女は、高校時代からの友人でその頃から活発で優秀な人であることは知っていましたが、フィリピンから帰国して以降さらに自分に自信がついていた様子が印象的でした。いざコースが始動始めると、全 4 回の事前学習会では、フィリピンの文化や国内事情について調べ発表を行ったり、フィリピンの生活をよく知る石井夫妻と UPLB の Lou 先生より、公用語として使われているタガログ語についてのレクチャーを受けたりと、大充実のサポートを受けました。これによって現地での学びの質を上げるベースができ

たように思います。

そして4Q 終了後から着々と荷造りを進め、迎えた出発当日。新しい環境に飛び込んで様々なことを吸収したいという胸の高鳴りと、3週間も異なる国で生活していくことへの不安で、緊張が抑えきれず終始こわばった表情のまま関西空港を後にしたことを覚えています。しかし、いざフィリピンに着いてからの3週間は非常にあっという間で、1日1日過ぎていくのが惜しいあまり、自他ともに認める超朝型の私が毎日友達や UPLB の学生と語り明かし夜更かししていたほどでした(本当は翌日の授業に向けて早く寝るべきではありますが)。



↑ Batch15 の初講義の様子、左午前、右午後

毎日の授業は、午前3時間、昼食の1時間を挟んで午後3時間の2パート展開されており、どちらか一方が "Conversational Fluency and Vocabulary Enrichment", 他方が "Pronunciation Improvement and Oral Presentation Skills" のように分かれていました。途中で適宜休憩は挟みつつも授業時間が3時間であることを知った時は率直に「途方もなく長いな」と感じたのですが、実際に受けてみると毎回の授業が楽しくてあっという間でした。どの授業も序盤にダンスや発声練習、ミニゲームなどのアイスブレイクのようなアクティビティがあり、頭と体を十分に目覚めさせたのちに講義に入っていきます。これらはクラスのみで行うのですが、最初の1,2回は少し恥ずかしい気持ちがあり、モゾモゾしていましたが、慣れると今度は何をやるのだろうと段々楽しみになってきます。またこのアクティビティを挟むことで、緊張がほぐれクラスで発言することのハードルが下がったように思いました。授業内容は、初日は英語の発音などから始まり、そしてフレーズなどを効果的なプレゼンの仕方や伝え方などの私が欲しいと思っていた知識とコツを知ることができました。また、先生からの講義でインプットするだけでなく、クラスメイトと協力しながらロールプレイやプレゼンを作ったりするといった実践練習を行う時間も各回しっかり確保されており、アウトプットすることでより身につけて学べたように思います。そこで行なった発表にはほぼ毎回評価の対象であり、先生方は発表に対して毎回詳細なフィードバックをくださいました。

大充実の授業が終わると、放課後の2時間は UPLB 大学生(スチューデントファシリテーター、以下 SF)と交流しながら外出し、活動を楽しむことで日常的な会話についても学ぶことができたように思います。神戸大学生3,4人の班に対し2人の SF が担当してくれ、外出時にはどちらか1人が曜日替わりで付けてくれます。ここでは UPLB 近くのカフェやフィリピンのファストフード店である Jollibee に行ったり、フィリピンのボードゲームで遊んだり、スーパーや雑貨屋に行って買い物をすることが多く、ビリヤードやカラオケを複数グループ合同で楽しんだこともありました。これらの遊びを通じて、自分が今夢中になっていることから、将来のこと、そして恋バナなど、いろんな話を時間を忘れて SF と話しました。その間、自分のリスニング能力の低さに悩み、SF には何度も繰り返し説明してもらい少し苦労したこともありましたが、自分の発した英語は自分が想定していた以上に通じるものだと分かり自信に繋がりました。

そして夕食をホテルで食べ終わると、2時間ほど Night Session という授業の予復習もしくはカードゲームなどの遊びを UPLB の学生さん(Student Guardian、以下 SG)とともにやる時間があります。ここでは私の発音を何度も聞いてもらい、一緒に練習しました。日本人が苦手であるとされている L と R の発音は、私にとっても大の苦手分野で

あり、何度も特訓してもらいました。そのうちにどの発音が正しくどの発音が違っているのか分からず嘆いたこともありましたが、SGさんは発音時の舌の動きをジェスチャーで伝えるなど試行錯誤してくれたり、「格段に良くなる」と褒めてくれたりと支えられながら少しずつできるようになりました。そうしているうちに1日が終わる、といった大充実の毎日を過ごしていました。



↑ 土曜早朝にフリーダムパークで行われる Zumba

丸1日休息に当てたり、決められた地域を自由に外出することのできるフリーデイが設けられている他に、3つの小旅行がプログラムに組み込まれていました。そこでは、UPLB 構内の施設、Villa Escudero、Manila の3箇所をめぐりました。大学内の小旅行というと、すごく小規模な気がするかもしれませんが、神戸大学の規模とは全く持って異なるので、おそらくかなり驚くと思います。構内からバンでしばらく移動するとかなりの大きさの植物園が、カラバオセンター、そして世界中のイネの種子が貯蔵された国際イネ研究所 (IRRI) まであります。大学全体にほぼ全てのインフラとそれ以上の研究施設があり、まるで一つの街のようでした。また二つ目の Villa Escudero は、南国の雰囲気存分に味わうことができました。そこにはフィリピンとキリスト教の関わりを存分に知ることのできる博物館を訪れ、フィリピンの伝統舞踊を見、バンブーボートに乗るなどの体験をしました。そこでの私の一番の思い出は、滝が落ちるすぐ隣で足を水につけながらフィリピンの伝統料理を食べたことで、いわゆるリゾート地での時間を過ごしました。そして最後の Manila ではローマ法王も訪れたことのある権威ある教会や、スペイン植民地時代の建築物が多く残るイントラムロス、フィリピン視点から見た第二次世界大戦に関する博物館、自然博物館など巡ることができ、フィリピンの歴史や文化について学ぶ時間となりました。いずれの小旅行も、なかなか自分一人で計画するのは難しいことと思いますが、このプログラムでは移動手段や各種チケットなどがすでに手配していただいていたので煩わしさを感じることなく、現地で学び楽しむことができました。

今回の留学によって、私は2つの点からかなり成長できたのだと思います。一つ目は、もちろん英語の能力です。留学前は細かい文法に囚われがちで、詰まりながら話すことが多かったですが、この期間はとにかくパッと口に出すことのできる表現を増やしたり、文法が多少変であっても堂々と話すことを心がけていました。SF や SG、先生の使っている単語や表現を真似して使うように心がけることで、少しずつ言葉に詰まることが少なくなってきたのかなと思うように思います。SF、SG たちと仲良くなり、内輪ネタでキャッキヤと盛り上がった時はとても嬉しかったです笑。二つ目は、体験記のタイトルにもあるとおり、「自分とは何か」についてすごく考えたことです。SF や授業を担当してくださる先生方が、私自身のことについて尋ねてくださることが多かったのですが、私は自分の好きな食べ物、好きなアーティストさえ即座に答えられず、「自分のことなのにこんなにも自分のことを知らないんだ」とショックを受けました。また、UPLB の学生の皆さんは、私たちのためにさまざまに連絡してくれ、観光を共にしてくれる中で、自身もすごく勉強をされていました。睡眠時間を削って勉強に励んでいることを多く耳にしましたし、彼らの専門分野について尋ねると非常に詳しく答えてくれました。そして自分の好きな食べ物さえ分からない私は、もちろんこの質問についても満足に答えられず情けない思いをしました。以前の私がこういった場面に出会ったなら、自分自身が情け

ないあまり自分を卑下していたことでしょう。しかし、フィリピンに行ってポジティブな人たちと出会った私は違います。今は、「無知であることを認識できてよかった」と思うのです。もちろん過度な開き直りは良くないことですが、フィリピンでの3週間でSFや先生方からポジティブシンキングのシャワーを浴びた私は、「考え込みすぎることはやめて、ある程度はポジティブに生きていこう」と思うようになれたと思います。



↑ UPLB trip で植物園、竹細工センター、IRRI で Ana 施設長に次々熱心に質問する学生達

今後の私のプランではありますが、今回の留学とそこで得た学びを踏まえて、今後は英語の上達を主目的とするのではなく、英語をコミュニケーションツールとして利用する留学も経験していきたいと思っています。また、今回のように英語がノンネイティブでないフィリピン（極めて英語圏に近いもののそれでも生活の根本にはタガログ語があり、やはり完全な英語圏ではないと感じています）だとやや訛りが強いという悩みもありましたので、完全英語圏のニュージーランドやオーストラリア、アメリカやカナダなどにも長期で留学できればと思っています。日常生活においては、もっといろんなことに敏感でありたいと思います。自分のことを理解し、様々なことにアンテナをはって情報を常にアップデートし続けるように心がけていきたいです。

最後にダメ押しでこのプログラムのアピールをさせてください。英語で授業を受けて、授業内容として英語を学び、先生との対話やクラス全体への発表に英語を話し、放課後の時間、休日の観光とお出かけにおいて、日常生活で使用する英語を学び、話し、考える...といった英語漬けの生活ができるのが、このプログラムの魅力です。もしかすると、みなさんの中には「フィリピンは治安が良くない、危ない」というイメージを持つ人が少なからずいらっしゃるかも知れません。しかしこのプログラムでは常に複数人行動が求められるというルールが整えられていたり、外出の多くに先生方や現地の大学生が付いてくれるので、安心して過ごすことができるかと思います。また、私たちが過ごした SEARCA HOTEL や UPLB キャンパスは、清潔で過ごしやすい環境で、Salad Country さんから提供される毎食の食事はフィリピン料理が多く用意されながらも日本人の私の舌にも合う、とても美味しいものでした。振り返れば食に関して困ったことはほとんどなく、むしろ毎食を楽しみに授業を受け、課題に取り組んでいました。そして先ほどから何度も述べている通り、フィリピンの人々は、本当に暖かく、周りの人を思いやり尽くしてくれるいい人たちばかりです。家族を大事にするだけでなく、友達もすごく大事にしてくれます。SNS などの連絡もすごくこまめで、帰国して1週間がたった今もお連絡を取り合っていますし、寂しくなったからと言って突然電話してきてくれることもあります笑。そして学ぶときはしっかり学んで、楽しむときはとことん楽しむという姿勢が、私たち日本の大学生にはとても刺激的なものになることと思います。

ぜひあなたもフィリピン、そして UPLB でかけがえのない思い出と学びのある、最高の3週間を過ごしませんか？

想像以上の財産を得た留学

農学部 生命機能科学科 2年 K. M. (PON)

皆さんはフィリピンへの留学にどんなイメージを持つでしょうか。私はフィリピンに対して南国フルーツのイメージしかなかったため、UPLB コースがどのような経験になるのか想像がついていませんでした。とりあえず漠然とした目的と頑張ろうという意志を持ってフィリピンに飛び立ったのですが、自分でも驚くほどの満足感で帰国することになったのです。

まず私が UPLB コースに参加した目的は主に 2 つあります。一つ目は英語力を向上させることです。これまで私は reading と listening しかまともに学習してきませんでした。大学生になり人との交流が増える中で、英語が話せないと外国の方とコミュニケーションを取ることが全くできないと焦りを感じ始め、もっと話せるようになりたいと思うようになりました。留学すれば英語を話すきっかけを強制的に作ることができると考えていました。二つ目は人前で話すことに対する苦手意識を克服することです。私は人前に立つとすぐ緊張して声や手が震えていました。この留学ではインターアクティブな授業がメインだと知り、授業を通して人前での発言に慣れることができるのではないかと考えました。UPLB コースは短期留学な上に集団で渡航することから、気負いするものが少なく思い切って参加してみることにしました。



↑ 夕食後のナイトセッション(NS)で Student Guardians(SG)とゲームや補習

結論から言うと、私はこれらの目的を達成することができました。留学中様々な活動がありましたが、この目的を達成することができた大きな要因は授業形式とナイトセッションにあると考えます。

授業では日本で今まで受けてきた受け身な授業とは全く異なり、生徒の発言が求められることが多かったです。特にコミュニケーションの授業では会話でよく使うフレーズや受け答えを学び、グループワークですぐ実践して定着させることを繰り返しました。上手くできなくても先生方がポジティブな意見を返してくださるので、次第に自分の発言に自信を持つことができるようになっていきました。最終的にクラスの前でプレゼンテーションを行いました。人生で一番堂々とした発表を満足した出来で終わることができました。

ナイトセッションというのは夕食後に現地の学生(student guardians, SG)3人と交流する時間です。課題をしたり、一緒にゲームを楽しんだりできます。私はこの時間に主に発音の練習をしており、授業内で難しかった単語の発音を SG に繰り返し修正してもらっていました。毎日のように彼らに私の発音を聞いてもらっていたので、最初に比べてかなり上達しているよ、と言ってもらえた時は本当に嬉しかったのを覚えています。この交流を通じて SG と親しくなることができたため、話が弾んで会話の練習にもなりました。

私はこれらの活動で本来の目標を達成できただけでもプログラムに参加した意味があったと思います。ここで得

た英語力と苦手意識の克服は私自身の価値アップに大きく貢献したに違いありません。しかし、私が本当に皆さんに伝えたいことはここからのことです。この留学では想像していたよりもはるかに多くのことを経験、吸収することができました。それは主に文化や価値観の違いであり、これらは今後の英語学習や生き方に対する私の考えを大きく変えました。この違いは GI での交流で実感することが多かったです。GI とは現地の学生 (facilitator) 2 人と私たち学生 3、4 人がグループになって放課後に学内外を散策する活動のことです。この活動では facilitator と親密な関係を築いて、様々な話をするすることができます。GI の活動が設けられていることがこのプログラムの一番のオススメポイントであると言っても過言ではない程、とても貴重な時間でした。ここでは GI を通じて経験したことをいくつか紹介したいと思います。



↑ Guided Interaction で facilitators との語り合いやゲーム

一つ目はフィリピン人のとても明るくフレンドリーであるという人間性の良さです。Facilitator は初めて会った時から笑顔でフランクに話しかけてくれて、初対面とは思えない距離感でした。GI 中も盛んに話題提起をしてくれて、様々な話を共有しました。日本人は空気を読むという習慣がある為、話すことがなくて気まずくなるという空気を皆さんも経験したことがあると思います。しかし、フィリピン人と交流しているなかでそのような瞬間を感じたことはありませんでした。彼らは思ったことを口に出して伝えてくれるため、相手の意図をこちらがくみ取るという場面はなかったように思われます。特に肯定的なことは積極的に伝えてくれて、よく私たちのことを褒めてくれました。これは私たちに限らず、facilitator 同士でもあったことなのでフィリピンでは当たり前のことなのだろうと思います(褒められたら褒め返していた！)。この習慣がフレンドリーという彼らの人間性を形成するのでしょうか。日本の空気を読むという習慣も良い文化であると思いますが、私はフィリピンの思ったことをはっきり伝えるという習慣の良さを実感しました。人との距離を縮める上で見習いたい文化の違いだと私は考えます。

二つ目はフィリピン人は政治への関心が高いということです。私たちがいる期間中にも UPLB の学生集団が政治に対して抗議している場面がありました。「賃金を上げろ」「教育に対する人権獲得」等をプラカードで掲げ、拡声器で訴えていました。日本でも見たことのある光景でしたが、より規模が大きいように思われました。日本人である私たちの元にも説明をしに来てくれました。また、学内に政治への皮肉を描いたポスターが貼られていたり、反政府勢

力の人が殺害されたことに対して抗議する紙の貼られた椅子が至る所に置いてあったりとあらゆる形で政治への意思表示が行われていました。訴えていることは日本と似たようなものが多いと感じましたが、実際の現状は日本より酷いものであるのだと思います。皆さんのイメージにもあるようにフィリピンの平均年収は日本よりもかなり低いです(約 10 分の 1)。経済的に豊かである人も少ないため、家族を背負って大学に通っている人も多いそうです。そのような彼らにとって政治の改革は大きな影響を持つでしょう。私たち日本人は政治への不満を持ちながらも、選挙への投票率が低いことが問題となっています。若者も政治へ関心を持つことについて考え直させられました。

三つ目は GI の時間が最も自分の成長を感じる場であったということです。現地の飲食店や雑貨屋に行くことができるため、日常英会話の練習をすることができます。授業で学んだことを生かすだけでなく、新しいフレーズをたくさん知りました。意外と注文することは難しく、正しい発音で商品名を言えないと店員さんは分かってくれませんでした。聞き返される内容が理解できず、注文ミスをしてしまう人もいたようです。また常に facilitator と行動するのでグループ内での会話は基本的に英語です。初めは簡単な日常会話しかできなかったのですが、次第に専門分野やプライベートの話などより高度な会話をするようになっていました。相手に伝わるように話せるようになるためには、毎日のように英語の文を組み立てて話す練習をすることが重要だと分かりました。インプットするだけでは英語は上達せず、アウトプットが必要不可欠であるということを実感しました。

これら以外にもフィリピンのお菓子やゲームを楽しみました。GI を通じて facilitator と親密な関係を築くことができたため、SNS を交換して今でも連絡を取っています。帰国すると英語を使う機会が一気に減るので、英語学習において彼らの存在はとても大きいです。私はここまで仲良くなれた外国人の友達を持つことは初めてなので、関係を続けていきたいと思っています。



↑ 理・富永先生のランチオンプレクチャーと Alvin 教授のラボ訪問

今回の留学は私にとって大きな財産となりました。日本と異なる文化に触れることで私の興味・関心の幅が広がりました。例えば、オススメされた洋楽を聴きたい！海外旅行に行って他の文化を知りたい！などといったことです。今まで洋楽を聞くことや、海外に行くことに抵抗を感じていた私ですが、もっと日本を飛び出したいという気持ちに駆られています。また人との関わり方にも変化があり、距離感を感じさせない付き合いができるようになりたいと思っています。例えば、自分から進んで挨拶をしたり、相手のことを否定しないなどといったことです。些細で当たり前ことに感じられますが、この行動の重要性に改めて気づかされました。今回の留学は間違いなく私のこれからの生き方に大きな正の影響を与えました(英語学習だけではない)。このプログラムに参加することに迷っている人がいるならば、絶対に応募してほしいと思います。いや、これをただ読んでいるだけの人にもお勧めしたいです。不安に思うこともたくさんあるかもしれませんが、行って損はありません！毎日が刺激的で、3 週間はあっという間に感じたほどです。一歩踏み出すだけで想像以上に自分の人生を豊かにできる、そんな素晴らしいプログラムでした。

On my way to acquire English

理学部 惑星学科 2年 Y. H. (YUUKI)

僕は3週間のUPLBプログラムを経て、フィリピンという国、食べ物そして人々が大好きになりました。そして同時にたくさん濃密な体験ができ、一生ものの思い出になりました。フィリピンでの生活がこれからの人生の契機になり、大いに活かされることを僕は確信しています。

この3週間での大きな成長の1つは積極的に行動できるようになったことです。UPLBの授業では先生からたくさんの質問が飛んできます。また、みんなの前で英語で寸劇をしたり、発表やプレゼンテーションをしたりします。僕自身、日本では手を挙げて発表するタイプの人ではなかったし、人の目線を気にしてそういったことを拒んできました。ですが自己表現をするチャンスがそこら中に転がっていて、むしろ自己表現しなくてはならない状況におかれることで、必然的に積極的に発言するようになりました。先生からの質問やリクエストにも率先して手を挙げ、英語で自分の意見や自分自身のことを表現できるようになりました。授業が進むにつれて、自己表現を楽しむことができるようになり、ユーモアを含んだことも言えるようになりました。



↑ 20才以上引率して BAR TRESTO で大盛り上がりの飲み会

次に3週間のフィリピン留学を経て、フィリピンのここが好き!となったポイントを書きたいと思います。

まず、食べ物がめちゃくちゃ美味しい上に安いです。特にマンゴーは日本円でだいたい150円くらいで買って、ホテルに帰ってかぶりついていました笑。多分、この世の果物で一番美味しいです。あまりの美味しさに僕の周りの友達はみんな食べていたので、ファシリテーターに笑われていました。他にも、ウベやアドボ、ルンピア、レッドホース(お酒)など美味しい食べ物をたくさん食べることができました。食事が出てきた食べ物で気に入ったものは、どこで買えるか聞いたりしていました。また、UPLB 周辺の美味しいカフェやレストランはファシリテーターやスチューデントガーディアンに聞いて行ったり、彼らが連れて行ったりしてくれました。

次に紹介するフィリピンのいい所はフィリピン人の人柄です。みんなとにかく明るいです。特に、ファシリテーターは初めて会った時から自分たちと仲良くなろうと距離をぐっと縮めてくれました。たくさん質問をしてくれるし、リアクションもとても大きくこちら楽しい気持ちになります。ほとんど喋ったことがなくても目が合ったら“YUUKI〜〜!!!”と笑顔で手を振ってくれます。自分は普段から気まづくなるのを恐れ、人との対話に消極的でした。しかし、3週間たくさん彼らとお話して、こういったパーソナリティを見習おうと思いました。本当に楽しい会話ができてよかったです。

最後に、フィリピンでの英語について書きたいと思います。授業や GI、それからネブラスカ大学の学生さんとの交流を経て、色々なスラングやイディオムを知ることができました。ですが、英会話そのものに関して3週間という短い期間ではあまり成長を実感できなかったです。英語でのコミュニケーションの難しさをひしひしと実感しました。特にリスニングに関

しては色々と考えさせられました。英語のリスニングでは、日本でのコミュニケーションに比べてより一層集中して聞かないと聞き逃したり、意味が分からなくなってしまうことがあります。ナイトセッションの時に、UPLB の教授と日本人の友達と 2 時間ぶっ通しで話す機会がありました。もちろん楽しい 2 時間になったのですが、2 時間ずっと半端なく集中していたので終わった後、くたくたになっていました。英会話をより楽しむにはリラックスしながら、スピーキングとリスニングができなければならないと思いました。



↑ Batch15 の 3 週目講義の様子

もう一つリスニングに関する困難がありました。それは相手の言っていることが聞き取れなかった時の対応です。僕たちは授業の後に現地のファシリテーターと英語で会話する機会がたくさんありました。そこでの英語は家でくつろぎながらヘッドホンを付けて、YouTube で聴く英語とは全く別物でした。スピードも速く、なまりもあり、センテンスではなく単語でしか聞き取れないことが多々ありました。単語で聞き取っていると、意味が分からなくなったり、勝手に頭の中で都合のいいセンテンスに作り替えたりしてしまいます笑。僕は相手の言っていることが分からないとき、相手に聞き返すのをためらっていました。会話の流れを止めて気まずくなるのが怖かったからです。ですが、そんな考えを変える出来事がありました。友達とジョリービーに行った時、店員が“WHAT DRINK WOULD YOU LIKE TO ORDER?”と僕に聞いたのですが、早すぎて聞き取れなくて聞き返すこともなく、思わず自分の名前を言ってしまいました。店員も困惑して、気まずい空気が流れました。(ファシリテーターの人にこのエピソードを話したらめっちゃくちゃ笑ってました)この経験を通して自分の悪い所がしっかり出てたなと思いました。このことから、分からない時はしっかり聞き返そうと思いました。この失敗のおかげで多分こ

れから”WHAT WOULD YOU LIKE TO ORDER?”を聞き間違えることはないでしょう。英語は実際の会話で上手くいったり、失敗したりしないと伸びないと実感しました。知識だけをインプットしていても実際の会話で使えないということです。



↑ 閉講式

最後にもう 1 つ思ったのが、簡単な英会話例えば趣味や予定を話したり聞いたりはできるのですが、友達同士のコアで面白い会話になると英語が出てこないということです。自分の英語力がどのくらいかを知れて、もっと英語力をつけようと思えるいい機会になったのでよかったです。

今は海外の友達をたくさん作りたいし、それができるくらいの英語力をつけたいと思っています。英語へのモチベーションがとても上がっています。

3 か月の間、サポートしていただいた金丸先生、茶谷先生、林先生はじめ農学部理学部の先生、スタッフのみなさん、UPLB の先生、スタッフのみなさん、フィリピンの美味しい食事を提供していただいたサラダカントリーのみなさんに感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

そして、UPLB のファシリテーターとスチューデントガーディアンのみなさん！ありがとう！大好きです！
Batch15,16 という最高のメンバーで 3 週間で過ごせて幸せでした。ありがとう！そして、フィリピンに行かしてくれた両親に感謝です。



↑ 帰国の朝、マニラ空港まで別れを惜しんで来てくれた Student Guardians と一緒に

2023年度 UPLB 英語コース受講者(Batch16^{*})の声

^{*} 2023年度(2024.2.24(土)出国、3.16(土)帰国)は受講希望者増と少人数クラスの両立のため B15 (2年生 13名) と B16 (1年生 12名) に講義クラスを分けつつ、他は混成にして一体感を醸成しました。

10月上旬にコース説明会をしますが、事前に受講条件、費用(実質30万円前後の見込)、事前学修会、現地での生活などについて知りたい方は、農学部応用生命化学コース 金丸先生 (kng@kobe-u.ac.jp) または農学部教務学生係 (ans-kyomu@office.kobe-u.ac.jp) にお訊ねください。

人生を変える3週間

農学部 生命機能科学科 1年 S. T. (SUZUNA)

私がこのプログラムに参加したのはとにかく海外に行ってみたいという思いからでした。リスクを恐れてしまう自分にとって多くの日本人学生、教員とともに参加できるこのプログラムは海外が初めての自分にぴったりでした。また、大学に入ってから翻訳に頼ることが増え、そもそも英語に触れる機会が減っていることが気になっていました。英語学習は継続が重要なことを高校時代に身をもって実感していたので、このプログラムで大きく成長するというよりはその後の勉強のモチベーションを得ることを目的として参加しました。



↑ ホテル到着直後、ロビーで B15&16 + 金丸先生、茶谷先生の全員で

留学中は基本的に平日の午前と午後に3時間ずつの講義を受けます。午前中は会話、午後は発音やプレゼンテーションについて学びました。私が最も苦戦したのは発音です。私たち Batch16 の先生のうち一人は正しい発音ができるまで“One more”といい続ける愛のある厳しい先生でした。初日の私は何度発音しても正しい発音ができず、自分のできなさにひどく落ち込みました。その日から夜の Night Session で Student Guardian(SG)の3人とほぼ毎日発音練習をしました。舌の位置や唇の形を丁寧に教えてもらい毎日が多くの学びであふれていました。最も苦

戦した jewelry を正しく発音できた瞬間はこの3週間で一番うれしかったのでフィリピンでの思い出をプレゼンする授業でこのことを発表したほどです。フィリピンでの授業は日本と大きく違います。授業の初めは楽しくダンスをしたり、ゲームをしたりします。午前中の授業は会話表現を習った後、ほぼ毎日それを用いた role playing を台本から考えていくつかのグループに分かれて発表しました。Batch16 はエンターテインメントを意識している人が多かったので私はこの寸劇を毎日楽しみにしていました。教室は活気であふれ、毎日大笑いしていた記憶があります。12人という人数がちょうどよく積極的に参加することができました。全員が真剣に授業に取り組んでいたのが恥ずかしいという感情はほとんど生まれず演技していた気がします。前述したとおりリスクを避けようとする私はいつも2番目を行こうとしていました。誰かに先に行ってもらって「どうだった？」と聞いてイメージしてから取り組むことがほとんどでした。そのため、最初の方の授業が一番に手を挙げることをためらっていた私ですが、先生方がとても優しくかったのと、教室が間違いやできないことを馬鹿にしたりするような雰囲気ではなかったのが最後のプレゼンの授業では自分から1番目を選んで発表することができました。今まで、受験に合格するための英語しか学んでこなかった私にとって、具体的な会話表現や正しい発音の仕方を学べたのはとても意義があったと思います。留学前は、正直発音なんて大体あっていればよいだろうと思っていたし、単語さえ分かれば通じると考えていました。実際、多少時制や文法が間違っても読み取ってもらえるのですが、その分発音が正しくないと伝わらないことを実感しました。例えば“bird”は“bat?”と聞き返されたりしました。また、si と shi などの違いなど日本語では気にしないことを意識するきっかけにもなりました。



↑ 開講式のあとのランチで講師&茶谷先生(左)、ファシリテーターの UPLB 学生達(右)

発音に苦しんでいた私は放課後の Guided interaction(GI)や Night Session(NS)に救われていました。この時間が本当に楽しかったので3週間ずっと笑顔でいられたのだと思います。このプログラムの一番のおすすめポイントです。GI は日本人3、4人と UPLB の学生2人(facilitator)のグループで好きなことをする時間です。私たちは買い物に行ったり、カフェに行ったり、Freedom Park と呼ばれる公園で遊んだりしました。何ができるかをあまりしなかったのと全員女子だったのもあって、カフェに行くかショッピングするかのほとんど2択だったのですがマッサージやビリヤード、カラオケをすることもできました。GI での一番の思い出は Freedom Park で他のグループと一緒にテイルスウィフトの“*We Are Never Ever Getting Together*”を歌ったことです。高校の音楽の授業でこの曲だけギターで弾き語りできるようになっていたのがまさか役に立つとは思っていませんでした。実はこの日はアメリカのネブラスカ大学の学生もフィリピンを訪れていました。日本人、フィリピン人、アメリカ人が国境を越えてみんなで芝生の上で歌っていたあの瞬間はとても素敵な時間でした。留学するときには洋楽とアニメを勉強していくことを強くお勧めします。私はアニメに疎かったのですが、洋楽を普段から少し聞いていたので一緒に歌ったりして楽しむことができました。日本人よりも詳しいくらいアニメは人気だったので有名どころは抑えておけばよかったと思いました。フィリピン人はとてもオープンマインドで初対面の時からずっと知り合いだったかのように接してくれました。その感覚になれなかった私は初日に facilitator が陽キャすぎると友人に伝えたほどです。その後、会話をしていると彼女の頭の良

さが節々にみえて、ただの陽キャではなく周りが見えてとても気が使える人だということが分かりました。GI 中にたくさんの会話をしたのですがポケット Wi-Fi をもってっていってなかったのわからない単語があっても調べることができず少しもどかしかったです。しかし、適当にわかったふりをするのではなく、分からないと正直に伝えたらわかりやすい言葉に置き換えてくれたり、具体的な例を示して教えてくれたので言い換え表現を同時に学ぶことができ、それはそれでとてもよかったです。フィリピンの文化をたくさん知ることができたのも GI のおかげだと思っています。

NS は 3 人の SG と授業の復習をしたりカードゲームをしたりおしゃべりをしたりして過ごす時間です。GI は平日のみであることに加え、facilitator の 2 人は毎日交代で参加する形だったので実はそこまで一緒にいる時間は多くなかった気がします。しかし SG の 3 人は土日も含めて毎日会うのでその分思い出もたくさんあります。前述したように発音練習をほとんど毎日手伝ってもらいました。発音練習と書くときごくかたく聞こえますが音楽をかけながらノリノリで練習したり前述した厳しい先生のモノマネをしながらだったりとても楽しかったです。もちろん勉強以外のこともしました。私が最も楽しかった NS は Exploding Kitten というカードゲームをした日です。この日は 20 歳以上の人がお酒を飲みバーに行っていたので NS の参加人数がとても少ない日でした。何度も奇跡が起きた夜でした。その後同じゲームをやりましたがやはりこの日を超える楽しさはありませんでした。最終日、ずっと涙をこらえていましたが SG との別れのときは我慢できませんでした。日がたつにつれてジョークを言い合って笑いあえるほど打ち解けることができ、今でも Instagram 等で連絡を取っています。彼らにはまた絶対会いに行くつもりです。



↑ 初日午後の B16 の preEPE (講義開始前のレベル確認のためのマンツーマン面接)

フィリピン料理はとてもおいしかったですし、乾季だったのでとても過ごしやすかったです。しかし、もちろん良い面ばかりというわけではありません。やはり、日本人が一番苦労するのは衛生面だと思います。シャワーも日本人のために給湯器をつけてくれたとはいえ、ぬるま湯程度でしたし、シャワーヘッドはなく天井から水が出るタイプでした。2 週目ぐらいには排水溝がすぐに詰まるようになり日本のお風呂が恋しかったです。トイレも大学外の場所はあまり期待できないです。日本にいたら当たり前だと思っていた日本の良さを外から見て改めて気が付きました。水道水がきれいなこと、Wi-Fi がしっかりしていること、下水処理能力がしっかりしていること、最低限の生活は国から保証されていることなどです。スーパーで期限切れのものが置いてあったり袋に穴が開いていることなどもありました。また、子供や老人からお金をせびられたこともありました。私が一番忘れられないのは少し離れたパブリックマーケットという市場に行ったときにやせ細った老人が私たち集団に対して、信号が変わるまでずっとそばを離れず手のひらを差し出し続けていたときです。もちろん断って相手にしなかったのですが、今にも死んでしまいそうな老人を見て、私は今十分なお金を持っていること、私が助けなければ 1 週間もたないうちに餓死してしまうのではないかと、日本では 100 円程度のお金でも彼らにとっては大きなお金になるということが頭をよぎりました。貧困や命ということについて考えさせられる出来事でした。物価も日本より確実に安かったです。

私はずっと日本という安全な国から出たくないと考えていました。英語にも自信がなかったので留学なんて大学に入学したころは考えてもいませんでした。しかし、前年に参加していた先輩が「本当に良かった、絶対に行った方がいいよ。」と強くお勧めしてくれたこと、そして英語が苦手な人こそ参加してほしいという先生方の説明を聞いて参加

を決意しました。授業内容はそこまで高度なことではないので英語が得意な人は退屈に感じるかもしれませんが、英語に限らず、自分に自信がないという人にこそ参加してほしいです。嘘くさく聞こえるかもしれないけれど絶対に後悔はしないと断言できます。社会人になったら、長期間自分の勉強のために海外に行くということは簡単ではないと思います。1, 2年生という時間があるときに一度留学してみるというのはとても良い経験になると思います。フィリピンの文化を学ぶことで異文化理解が深まることはもちろん日本のことを改めて好きになることができました。Villa Escudero というリゾートに行ったり、首都のマニラを観光したり、国際稲研究所 (IRRI) や MBG という広大なボタニカルガーデンに行くこともできます。英語学習にとどまらず今後の人生を大きく変える経験ができます。最初に述べたように英語学習のモチベーションを得たいと思って参加しましたが、実際に話してみてもっと深い話がしたい、スムーズに話したいという欲が出てきました。翻訳を通してではなく下手でも自分の言葉で伝えることができたということがすごくうれしかったです。また、facilitator は同い年の人もいて同世代の人と勉強としてではなく友達として恋バナをしたり、お互いのことで盛り上がるのがこのプログラムの魅力だと思います。高校の授業で、フィリピンの講師とオンライン英会話を毎週していましたが直接会って話すのとはやはり違うと感じました。何のために英語を勉強するのか、というのが同じ言語を通して距離を縮めるというこの経験を通して分かった気がします。農学部、理学部の人しか参加できないプログラムです。神戸大学の先生方のつてがあってこそこのプログラムです。こんな素晴らしい経験をこの価格でできることは奇跡だと思います。神戸大学農学部、理学部に入学したこと自体が運命だと思ってぜひ参加してください。

挑戦の先に～成長の原動力をくれたフィリピン留学～

農学部 生命機能科学科 1年 S. K. (SHOKO)

UPLB 農学英語コースに参加したことは人生で最良の選択の一つだったと断言できます。それほどまでにフィリピンでの留學生活は一生のうちで得難い貴重な経験になりました。というのも、このプログラムを通してたくさんの人に出会い、異なる文化に触れ、自分を見つめなおし、英語力だけでなく自分自身も大きく成長させることができたからです。



↑ Batch16 の午前、午後初講義の様子

私がこのコースに応募した理由は主に二つあります。一つ目は英語力、特に英語でのコミュニケーション能力を向上させたかったからです。フィリピンでは英語が公用語の一つであるため、現地の人と日常的に英語で会話することを通じて英語でのコミュニケーション能力を自然に培うことが可能です。私はこれまで読み・書きを中心に勉強してきた上、英会話教室にも通ったことがなかったため、英語で話す機会がほぼありませんでした。しかし、将来は

海外で研究活動を行うことも視野に入れているため、英語で話せるようになることは必須です。そのため、このプログラムに参加することで、話す力を中心に英語力を伸ばしたいと考えました。二つ目は精神的に成長したかったからです。私はこれまで自信のなさや恥ずかしさなどから、たくさんの方がいる場面で少し消極的になってしまったり、大勢の前で自身を表現することに億劫になってしまったりすることがありました。このプログラムでは、Batch のメンバーをはじめ、先生方や LITE のスタッフの方々、Facilitator さん、Student Guardian さんなど、本当に多くの方々にお世話になります。また、KARAOKE CHALLENGE や授業中のロールプレイング、プレゼン等では、自分なりの表現力が求められます。こうした方々との出会いや数々の機会を通じて、自分の殻を破り、初対面の人に対しても、また大勢の前でも堂々と自身を表現できる力を養いたいと思いました。



↑ 講義後の Guided Interaction (GI)で facilitators(UPLB 学生)と散策、Jeepney に乗って

UPLB 農学英語コースに実際に参加して感じた魅力を、英語の上達、プログラムの充実感、フィリピン人の人柄の3つに絞ってご紹介したいと思います。一つ目に英語の上達についてですが、3週間という比較的短い期間で誰でも大きく英語力を伸ばすことが可能です。日頃の授業はすべて英語で行われ、自発的に発言することが求められる上、授業後の GI や夕食後の Night Session でも現地の学生さんと英語で話す機会がたくさんあります。その機会を存分に生かし、自ら積極的に英語で話すことを意識すれば、いつの間にか自然と英語で会話することができるようになります。私は初めのころ、語彙不足や英語での会話に不慣れだったことなどが原因で、会話中に言葉に詰まったり、言いたいことを即座に適切な言葉で表現できずに困ってしまったりすることが多々ありました。しかし、授業中に自発的に手を挙げて発言することや、GI中や Night Session 中に Facilitator さんや Student Guardian さんに積極的に質問したり自分が見聞きしたことや感じたことについて話したりすることを通じて、いつの間にか瞬時に言いたいことを英語で適切に表現できるようになっていました。このように、なるべくたくさん英語で話す機会を確保するようにしていたことが、私の英語力、特に英語で話す力の上達に最も役立ったのだと思います。特に、授業中にたくさん手を挙げて発言することは、英語を話す練習になるだけでなく、瞬時に自分の考えをまとめて相手に的確に伝える練習にもなるのでおすすめです。他にも授業中やGI中に学んだ新しい単語や表現はどんどんメモしてその都度自分のものにしようとしていましたが、これは語彙を増やすのに最適な方法だったと思います。また、このプログラムで痛感したのは、正確に発音することの重要性です。Facilitator さんや先生方とお話しているとき、発音やアクセントが間違っているために意思疎通が上手くできなかったことが何度かあり、それまで軽視していた発音を学びなおす必要性を強く実感しました。このプログラムでお世話になる先生方は日本人特有の英語の癖をよく理解した上で、ノンネイティブならではの視点から丁寧に指導をしてくださいます。発音の授業は特に、日本人が間違いやすいところや苦手なところを中心に授業内容が構成されているため、効果的に力を伸ばすことができます。このことはフィリピンで英語を勉強するメリットの一つだと思います。私は発音が苦手だったため、発音のクラスでかなり苦労しました。私の発音の授業を担当してくださっていた先生の中には、一人ずつできるまで何度も練習させる方がいて、初めの2回の授業は特に、何度もやり直しを求められました。あまりに出来が悪く、半泣きになったことを覚えています。それでも、留学中に苦手な発音を何としても克服したいという思いから、授業中にできなかった発音を中心に、毎晩 Night Session で Student Guardian さんに見てもらいながら何度も練習しました。特に印象

深いのは、"cemetery"と"supposedly"の発音です。この二つはなかなか認めてもらえず、正しい発音を聞きながらたくさん口を動かして必死に覚えました。こうした練習の甲斐あって、いつの間にか口の筋肉と耳が鍛えられ、スムーズに正しく発音することができるようになっていました。この経験を通じて、正しい発音を習得しただけでなく、すぐにできないことに対しても諦めずコツコツ努力を重ねることの大切さを実感し、また克服した時に得られる達成感をも味わうことができました。

次にプログラムの充実感ですが、このプログラムは3週間の間に勉強も遊びもフィリピンの文化も全て堪能することのできる、非常に満足度の高い構成になっています。一日のスケジュールも充実しており、楽しみながら英語学習をするのに最適な環境が整っていると言えます。平日は朝 9:00 から夕方 16:00 まで午前と午後それぞれ3時間ずつコミュニケーションと発音の授業を受けた後、GI で Facilitator さんと交流し、夕食後の Night Session で Student Guardian さんに勉強を手伝ってもらったり、一緒にゲームをしたりしました。私は Night Session の間、課題や発音練習に取り組むことが多かったのですが、Student Guardian さんによる手厚いサポートを受けられたことに本当に感謝しています。Night Session の時間が自分の弱点を克服したり授業内容を補強したりするのに大いに役立ったと感じています。また、私が最も楽しみにしていたのは GI の時間です。授業中に上手いはず落ち込んでいた日も、Facilitator さんと過ごすうちにいつの間にか元気を取り戻せていたことを今でも思い出します。GI 中はカフェに行ったりジプニーに乗って買い物に行ったりしました。その道中で Facilitator さんとお話するのが何よりの楽しみで、将来の夢の話や自分たちの故郷の話などで盛り上がりました。Facilitator さんは自分自身の興味や大学での専門についてよく理解しており、将来の目標も明確に持っている方ばかりで今も本当に尊敬しています。また、年齢が近いこともあり、同じグループの Facilitator さんは私のことを妹のように可愛がってくれ、私も兄や姉のように慕っていました。休日の朝には早起きしてズンバに参加し、友達と踊ったことも良い思い出です。こうした通常日とは別に、丸一日旅行に行き、フィリピンの文化や歴史について学ぶ日も3日間用意されています。中でも特に印象的だったのは、最後に行ったマニラ旅行です。この旅行の目的は平和学習でしたが、スペイン統治の面影が残る美しい町並みと、その中にある戦争の痕を残した建物の様子が今も脳裏に焼き付いています。日本とアメリカの戦争に巻き込まれ、7つの教会のうち6つが戦争で破壊された話や空襲被害にあった教会の当時の写真、弾丸の痕がくっきりと残った建物を見聞きするうちに胸が痛くなり、二度と戦争が起こってほしくないと強く思いました。また、National Museum で見事な動物の剥製を間近で見て、フィリピンの方々の自然を大切にしている心や愛国心に触れることができたのも、貴重な経験になりました。



↑カラオケチャレンジ、後方で facilitator の声援、熱唱、King&Queen

最後にフィリピン人の人柄についてですが、私の留学生活は終始フィリピンの方々の温かく包容力のある素敵な人柄に支えられていたと言っても過言ではありません。フィリピンの方々は本当にフレンドリーで、初対面であっても相手のことを知ろう、親しくなろうと積極的に話しかけてくださいました。フィリピンに到着した日、LITE スタッフの

方々がマニラ空港で温かく迎えてくださったことで、フィリピンでの生活に対する期待と安心感が高まったのを覚えています。また、Facilitatorさんと初めて会ったときにも、誰もが笑顔で話しかけてくれたおかげで、すぐに全員と打ち解けることができました。私の名前をすぐに憶えてもらえたことも、とても嬉しかったです。こうした現地の方の人柄は、互いに親密な関係を築く上で重要だっただけでなく、私に率直な自己表現をする勇気を与えてくれました。私が現地で関わった方々は皆、自信に満ちていて、大勢の前でも堂々と自分自身を表現することに長けていました。同時に、相手のこともありのままに受け入れることのできる広い器を持っていました。そうしたフィリピンの方々の人柄に支えられて、私は徐々に大勢の前でも臆せず堂々とありのままの自分を表現できるようになっていきました。特に印象に残っているのが、KARAOKE CHALLENGE、授業中のロールプレイング、プレゼンテーションの授業です。KARAOKE CHALLENGEでは、初めて大勢の前で恥ずかしがらずに心を込めて歌い進めることができ、充実感や達成感を味わいました。また他の人が歌っている間も歌ったりダンスをしたりして終始思い切りはしゃいでいました。それまでパーティーのような多くの人と盛り上がる場があまり得意ではなかったのですが、その時は笑顔で声援を送ってくれる Facilitatorさんの存在が力になり、自然と笑顔がこぼれて歌も応援も全力で楽しむことができました。皆がそれぞれに輝いていた KARAOKE CHALLENGE は、最も忘れられない思い出の一つです。KARAOKE CHALLENGE の後も、日を重ねるごとに自分自身を表現することにためらいがなくなり、授業中のロールプレイングでも恥じらわずに、自由な発想で面白い筋書きを考えたり自分の役を楽しく演じたりすることができるようになっていきました。そして、最終日のプレゼンテーションは、特に自己表現に関して、3週間の挑戦と学びの集大成にふさわしいものになりました。それまで気恥ずかしさから聴衆の目を見て話すことが苦手でしたが、その時だけはアイコンタクトを取りながら堂々と発表することができ、自分自身をありのままに表現することに喜びを感じました。今も現地の方とは SNS を通じて繋がっており、交友関係は続いています。国外にこんなに素敵な友人を作ることができたこと、そしてフィリピンで出会ったたくさんの方と素晴らしい時間を共有できたことを本当に幸運に思います。



↑ 20才未満を引率してフィリピン料理専門店 Selina's と Korean Top Chef で楽しい食事

これまで述べてきた英語力や自己表現の向上以外にも、この留学を通して成長を感じたことがあります。それはリーダーシップです。私は Batch16 の Student Leader をさせていただき、留学前後で自身の精神的な強さや全体をまとめる際の考え方が大きく変わったことを実感しています。初めころは自分がリーダーに相応しいか分からず、大勢をまとめることに不安があったため、自分に自信を持てずにいました。しかし、皆の支えもあって、だんだんと全体を俯瞰する余裕ができ、自分自身ともしっかりと向き合うことができるようになりました。自分にできることやできないことをきちんと把握できるようになったおかげで、臨機応変に柔軟な対応ができるようになり、皆からも慕ってもらえるようになりました。この Student Leader の経験が、私を精神的に強くしてくれただけでなく、自分に自信をもたらしてくれました。

UPLB 農学英語コースのプログラムは本当に充実していて、英語力の向上や自己成長に役立つ要素が揃っていると強く思います。しかし何より大切なのは、留学に参加する際に自分自身で目標を設定し、その達成に向けて日々努力することだと思います。本当に成長するためには、臆せず恥じらわず常に全力で取り組むことが必要です。

ただ留学するだけでは大した成長は望めません。私は毎日、昨日よりも今日、少し成長するつもりで、学べることは最大限学び、臆せず諦めず何でも何回でも挑戦してみることを意識して過ごしていました。そうした姿勢が結果的に英語力の向上だけでなく自身の成長にもつながったのだと考えています。

私は今回の留学でたくさんの方々に支えられ、フィリピンでかけがえのない時間を過ごすことができました。この経験は、今後も私の人生において大きな力になってくれると思います。みなさんも是非、このプログラムに参加してみてください。きっと、あなたを変える素晴らしい経験が待っています。



↑夜はフリーダムパーク沿いの AAmart で買い物したり、2 階ラウンジで一緒に勉強に励んだりも

飛び込んでみれば何とでもなる！

農学部 生命機能科学科 1年 Y. U. (YUINA)

皆さんは大学生のうちに留学を経験しよう、と思っていますか？これを読んでいるということはきっと留学への興味はあるのでしょう。もしかすると中には留学に興味はあっても自分には難しいと躊躇っている人もいるかもしれません。ですが、躊躇う必要はありません。留学は語学に優れた人やコミュニケーション能力の高い人だけがするものではないです。実際、私はそのどちらにも当てはまりませんが留学しました。そんな私の留学体験をここに記していきます。読めばきっと留学へのハードルが下がると思います。

私が UPLB 農学英語コースに参加した動機は二つありました。一つは自分の言いたいことを英語で話すことができるようになりたかったからです。もう一つは人見知りや人とコミュニケーションを取ることが苦手な自分を変えるきっかけになるかもしれないと思ったからです。正直なところ現地で上手くやっていけるか、費用に見合う成果を得られるのか不安で、かなり参加を躊躇いましたが、友達と参加できるということも後押しとなり、最終的には申し込んでみることにしました。

申し込んだ後、事前学習会が計四回ありましたが、その中で一番私の記憶に残っているのは、第一回の事前学習会です。このときに今回一緒に留学するメンバーと初めて顔を合わせました。一人一人前に出て自己紹介をした後に交流会があり、お互いについて質問し合う時間が設けられました。私はこの時点では、あまり自分から話しかけることができず、数人の顔を覚えたただけでした。その帰り道、この先みんなと仲良くなれるのだろうかとひどく不安になったのをよく覚えています。その後第二回から第四回の事前学習会では、PhD プログラム(グループごとに決められたテーマに沿ってフィリピンや UPLB に関する情報を留学前に調べ、プレゼンする)の発表をしたり、先生や事

務員さんのサポートのもと留学に必要な手続きを進めたり、スケジュールや持っていくものについて確認したり、フィリピンの公用語の一つであるタガログ語を勉強したりしました。

そしてついに出発の日がやってきました。フィリピンに到着するまでは緊張と不安でいっぱいでしたが、フィリピンでの毎日は刺激的で忙しく、そんなことを考える暇もありませんでした。初めは長いと思っていた 3 週間はあっという間に過ぎていき、最早短いとすら思うようになりました。B15・B16 のみんなに上手く馴染めないんじゃないか、と出発前からずっと懸念していましたが、3 週間一緒に食事したり授業を受けたり課題を一緒にやったりするうちに、打ち解けることができました。今になって思うのですが、そこまで心配する必要はなかったです。不安を抱えながらもプログラムへの参加を決めて良かったです。私は今までにこんなにも濃い 3 週間を過ごしたことがありません。

そんな充実した 3 週間の中でも特に私の印象に残っているのは、授業と GI(Guided Interaction)です。これらはこのプログラムの履修を考えている皆さんにオススメしたいポイントでもあります。私の体験を交えながらそれらについて紹介します。



↑ Batch16 の 2 週目講義の様子

まず、授業についてです。フィリピンでの授業は日本と全然違って、授業開始前にダンスやゲームをしたり、ロールプレイやプレゼンなど前に出て発表する機会が多かったりしました。中でもロールプレイは私にとって思い出深いです。ロールプレイをする時、まず話し合ってストーリーの展開を考えていくのですが、クラスメイトのみんなと馴染めていなかった頃、私は話し合いに入っていけませんでした。ストーリーを考えるのを他のクラスメイトに任せてしまっていました。考えたストーリーにそって英語で台本を書くのも、私がやろうとすると他の人がやるより時間がかかってしまう、とわかっていたのでそれも丸投げしていました。あの人のようにアイデアをたくさん出せたら、あの人のように話し合いをまとめられたら、あの人のようにスラスラと日本語から英語を書けたら、と他の人を羨んだ時が何度もありました。そして周りの役に立てない自分に悔しさを感じていました。後から振り返れば、この悔しい気持ち学習へのモチベーションを上げてくれたように感じます。段々回数を重ねるうちに、私ももっと積極的に発言した方がグループメンバーの役に立てるのではと感じるようになり、大したことを言えなかったとしても発言してみよう、と思えるようになりました。そして少しずつグループの話し合いで発言できるようになっていきました。これは私にとっては大きな変化でした。今まで私は申し訳なさを感じつつも自分から発言する勇気が出ず、自分に話を振られたら話す、くらいしかできませんでした。そんな風に消極的だった自分が、周り積極的に関わろうと考え、行動に移すことができたのです。普段と違う特殊な環境だからこそ、変わろうとすることができたのだと思います。

また、講師の先生たちはフレンドリーで教育熱心でした。授業開始前に休みの間に何をしていたかなど英語で話しかけてくれたり、提出したワークシートを細かく見てくれたり、プレゼンの出来についてももっとこうした方がいいとアドバイスをくれました。先生方の指導のもと、前より英語で話す時のぎこちなさが減ったり、発音が改善したり、発表への苦手意識が少し薄れたり、というように英語の力がついたと感じています。

このように、私は UPLB の授業で多くのものを得られました。授業で他のクラスメイトと協力したり競争したりするのを通して積極性や学習意欲が上がっただけではなく、流暢さや発音も改善することができました。もともと消極的

だった私でもこれだけのものが得られたのですから、皆さんも参加すれば必ず授業から多くを得られると思います。

次に GI についてです。GI では、授業後に B15・B16 の学生 3、4 人のグループに UPLB の学生のファシリテーターが 2 人ついてキャンパス内外を散策しつつ会話を楽します。GI の時間は 2 時間あり、スーパーで買い物したり、カフェでお茶したり、スイーツを買って食べたり、などなど GI グループごとに自由に行動します。ただ楽しいだけでなく、英語を話す練習をする絶好のチャンスです。

ファシリテーターさんたちはフレンドリーで優しい人ばかりです。私は全然自分から喋れませんでしたし、話しかけてもらっても十分な返答ができないことが多かったのですが、それでも私のグループのファシリテーターさんたちは毎回私に話しかけて、英語を話す機会を作ってくれました。積極的に関わりを持ってしてくれるのが本当に嬉しく、せっかくな話しかけてくれるのだから私ももっと話せるようになりたい、と強く思いました。彼女たちが英語を話す意欲を引き出してくれました。そこで、話を広げたり、質問するようしたり、なるべく話せるよう私なりに努力しました。しかし、どんどん話せるようになっていく同じ GI グループのメンバーと比べ、私はあまり話せないままで、進歩が感じられませんでした。



↑ Villa Escudero では博物館見学、川での昼食、プール、筏こぎなどなど満喫

滞在 3 週目のある日の GI で、「自分の英語はこの 3 週間であまり上達していない気がする」と私が軽くこぼすと、私のファシリテーターさんは「最初は単語しか話さなかったけど、今では文で話せるようになっている。ちゃんと成長しているよ」と言ってくれました。自分では実感がなくても、英語の上達をサポートしてくれた彼女に成長していると感じてもらっていた、と知ってとても嬉しかったです。同時に自分の英語も上達していたのだと安心しました。

私の英語を話す力が改善したのは GI の時間によるところが大きかった、と私は考えています。授業時間よりも GI の時の方が英語を話す機会が断然多く、一日で一番英語を話していたのはこの時間だったからです。人と話すことが苦手な私でもある程度の上達が認められました。もちろん、積極的にコミュニケーションを取りに行けば、更なる上達が期待できるはずですが、実際に私の友達は積極的に話しかけて、ファシリテーターさんと仲良くなり、メキメキと英語が上手くなっていました。ですが、たとえ皆さんがコミュニケーションを取ることに苦手意識を持っているとしても、GI では英語上達のチャンスが得られます。英語で人と話すことに自信がなくても、参加を躊躇わなくて大丈夫です。どんな人にもチャンスがあります。

日本に帰ってきて、私は少し寂しさを感じています。それほどにフィリピンでの日々は楽しく刺激的で、私にとってかけがえのないものとなりました。留学を終えた今、私は英語の表現力と語彙力を磨きたいと思っています。留学中十分に話せなかったことがどうしても心残りになっているからです。当面の目標は、相手の話をよく聞き、相槌を打ったり質問したりして会話を続けられるようになることです。そのためにインターネット上の素材を使うなどして英語に触れる機会を意識的に作るようにしようと思っています。

最後に、これを読んでいる皆さんに UPLB 農学英語コースの履修を呼びかけて結びとしたいと思います。私はこの留学プログラムを履修して、以前と比べ、語学力が向上し、考え方が積極的になったのを実感しています。当初の目標を完全に達成したとは言えないものの、これだけ自分が変わったことに満足しています。今もし、皆さんが興味を持ちつつも申込みを迷っているのであれば、勇気を出して申し込むことを勧めます。私自身も散々悩んで参加を決めたので、参加することを躊躇う気持ちはたぶん理解できます。慣れない環境に飛び込むのは怖いと思います。でも、一歩を踏み出すことができれば、非常に実りの多い経験をすることができる、と私は断言できます。ぜひ思い切って申し込んでみてください。申し込んで良かったと思えるようになるはずですよ。

フィリピン旅行記～3 週間？もっと居た気がする～

農学部 食料共生システム学 1 年 R. F. (RIKU)

「3 週間耐えられるかな。不安やな。」これがフィリピン出国時の正直な気持ちです。英語に囲まれた環境でしっかり自分の意見を出しながら生活できるのかも不安だったし、初めての海外で衛生面などの生活に適應できるのかかなり不安に思っていました。

最初に言っておくと、このような不安全くありませんでした！渡航後 3 日目にはもう日本に戻りたくないというレベルでした。なぜそう思ったのか、そして日本に戻ってきてから約 2 週間経ったなおもフィリピンに戻りたいな—と思っている理由を書きたいと思います。



↑ Batch16 の 3 週目講義の様子

まず、個人的に 1 番気合いを入れていた英語学習についてです。平日は通常日中に授業がありましたが、内容は特に難しくなく、日本で 1 度はやったことがあるかなというものが多かったです。でも、1 番違うのが先生ももちろん英語で自分たちの発表も全て英語という点だと思います！日本の英語の授業とは違って貴重な経験です。特に発音の部分が成長したと個人的に感じています。日本ではありえないぐらい繰り返し繰り返し発音して発音して、最初は先生に何度も言い直しと言われていましたが、最後には 1 発でパスできるようになりました！ただ、なんと言っても！フィリピンという異

世界で英語を学んでいる！という実感が英語学習へのモチベーションに繋がりました。また、授業中に学ぶフレーズや先生が話している言葉を授業後などに使えるように盗んでやろうという意識が大切だったなと思っています。

そして、授業以外でも、というより授業以外のほうがむしろたくさん思い出を作れたし、英語も成長したかもしれません！まず、ファシリテーターとの交流です。どんな人達だろうと思っていたけど、会った瞬間から親友になれて毎日ウキウキで放課後色んな所へ連れて行ってもらいました。UPLB の中ではなかなか感じられないリアルなフィリピンの景色、雰囲気も見ることができました！ファシリテーター全員の素晴らしさもここに書きたいんですが、思い出が多すぎてここには書ききれないので、心に秘めておきたいとおもいます。英語学習はもちろんですが、こうして一生の友達、普段から英語で話すことの出来る友達を得ることが出来るということもこのプログラムの大きな魅力でした。友人というと、学生トガーディアンの人たちとも楽しい時間を過ごすことが出来ました。毎日夕食後の時間に、ゲームしたり、たわいもないことを話したり、そんなことをする時間が本当に楽しくていつも 2 時間があつという間に感じていました。もちろん会話はオールイングリッシュなので、英語を話すということへのハードルは大幅に減りました！特にガーディアンの 1 人のパオラとは帰国時に LINE も交換して、今でも毎日会話しています！お互いにそれぞれの国のことを説明しあったり、英語の便利なフレーズを教えてもらったり、たまに電話したりと色々な意味で貴重な時間を過ごせています。このプログラムはフィリピンに行っている 3 週間がメインに見えますが、帰ってきたあともその素晴らしい時間が続いています！！

それと、意外と見落としがちですが、一緒に日本からフィリピンに渡った Batch のメンバーにもすごく感謝しています。事前学修会で出会い、でも僕的には出国時には名前と顔も一致しない状態でした。ただ、3 週間を通して色々なかけがえのない思い出を共有して、帰国時にはみんな盟友みたいな感じでした！！特にみんなのことを知れて、尊敬した場はカラオケチャレンジです！一人一人のパフォーマンスが本当に素晴らしくて、いっぱい盛り上がったし、みんなの印象がいい意味で変わりました！このプログラムに参加する前に、殻を破れるみたいな精神的なメリットも書いてあったんですが、まさにこういうことか！という感じでした。



↑ イントラムロス、マニラ大聖堂、自然博物館など見どころ満載の Manila trip

ここまで、比較的真面目に思い出を振り返ってきましたが、この 3 週間の思い出は正直いっぱい腹を抱えるくらい笑ったことです！！思い出は多すぎて濃すぎて1個1個は言えないけど、とにかくその全てでいっぱい笑いました！フィリピンの先生とも大学生とも日本の学生ともスタッフさんとも全員といっぱい笑いました！！出会ってまもない関係性でそんなに大笑いできるのはフィリピンの方の素晴らしい人間性だと思うし、そんな環境に身を置くことは日本に帰ってきてからの自分の価値観に大きく影響しました！実際、日本に帰ってきてから、色んな人に前より明るくなったねと言われるし、知らないこと出来ないことへのハードルが下がったなという実感がすごいです！3 週間という期間とは思えないくらい影響力です。

最後に、全ての人に感謝を伝えたいです。誰1人欠けても今の思い出はなかったと思うし、全員が全員を支えていたワンチームの感じは素晴らしいなと思っていました。日本の方も、フィリピンの方も、友人も本当に皆さんありがとうございました。そして、これからも仲良くしてください！！



↑ 閉講式の HARUKAMA ダンス、最優秀成績者表彰、おそろい T シャツを着て